

任天堂Wiiのネットオークションにおける価格動向の分析

The study of bidder's behavior of the Internet auction in case of Nintendo Wii

江下雅之
(Masayuki ESHITA)

【要約】

2006年12月に発売された任天堂のゲーム機Wiiは、新たなゲーム市場を開拓し、全世界で好調な売れ行きを記録している。しかしながら、任天堂が大幅な増産を図らないために市場は慢性的な品薄状態となり、発売前の予約段階はもちろんのこと、発売から数ヶ月後に至るまでネット・オークションでの転売が活発であった。

Wiiをめぐるオークションの入札動向は、店頭発売日前後で大きく異なる。落札価格、各オークションへの入札者数とも、店頭販売当日まで上昇を続けた。しかし、こうした過熱は出品数が急増することで解消されている。また、落札価格、入札者数ともに単調な増減を示すことはなく、おなじ日でも上下に振幅している。他方、オークション参加者はこうした傾向を考慮した入札を行っているのではなく、入札者の参加時点で把握可能な出品機会のもとで競合の度合いを判断しているものと考えられる。

キーワード：ネットオークション、入札行動、任天堂、Wii

【Abstract】

Nintendo Wii has been introduced on December-2, 2006, which successfully developed some new markets of videogames in the world. However, Nintendo does not decide to increase its volume of productions. Therefore, a lot of customers could not gain Wii in the store, then they try to get it by bidding through Internet auctions.

Bidders' behavior has changed after December-2, 2006. The final price basically depends on the number of auctions. In fact, I recognized that the average final price reached its highest position on December-2, but the price went down the bottom line after a couple of days. The trend of the final price is so stable that the number of auctions largely decreases at 10p.m, but it increases after 2 a.m of the next day. The bidders do not take it into the account but recognize the volume of auctions at the time when they try to bid.

Keyword : Internet auction, bidder's behavior, Nintendo, Wii

1 はじめに

本研究はインターネットにおいて実施されているオークションの価格決定メカニズムを分析する上での基礎データを収集し、分析することを目指す。分析の対象として、「Yahoo!オークション」における任天堂Wii（以下「Wii」と呼ぶ）に注目した。

任天堂のゲーム機Wiiは、従来のゲーム機、とりわけライバル商品のソニーPlay Station 3及びマイクロソフトXBok360とは異なる商品開発戦略のもとで生み出された。結果的に任天堂の戦略は消費者に支持され、2007年上半期における日本国内販売実績では、Play Station 3及びXbox360を圧倒した。

Wiiは任天堂が大規模な増産を実施しないため、市場では品薄状態が続いていた。その結果、店頭で購入されたWiiがインターネット・オークションでしばしば転売されている。そのような動向は店頭販売開始後一ヶ月以上も続いている。長期間、おなじ商品が多数出品されるという状況は、インターネット・オークションでは例外的であるが、落札価格の動向を分析する上では、貴重なデータを提供してくれる。

本研究ではその点に注目し、インターネット・オークションにおける落札の動向を定量的に分析するものである。

2 オークション・データの収集

2.1 収集データの範囲と方法

2.1.1 収集対象

オークション・サイトは複数存在するが、本研究では、ヤフー株式会社が運営するオークション・サイト「Yahoo!オークション」（以下「ヤフーオークション」と呼ぶ）を対象を限定する。ヤフーオークションは日本で最大のオークション・サイトである。オークション間の一括価格比較及びデータ解析等のサービスを提供しているaucfan.com（株式会社オークファン運営）から「おもちゃ・ゲーム」カテゴリ中の「Wii」という語を含むオークションを検索したところ、2006年9月にヤフーオークションでは60点の落札があったが、他のサイトでは落札実績が認められない。11月にはBIDDERSにおいて105点の落札が認められるが、この時期にヤフ

ーオークションでは3,431点の落札があった。

この検索では、あくまでも出品のタイトルに「Wii」という語を含むオークションが対象であるが、Wii関連商品に関するオークションに関し、消費者の大半がヤフーオークションを利用していることは確実である。よって、分析対象をヤフーオークションに限定しても、それがオークション全体における動向をほぼ反映しているものと判断できる。

ヤフーオークションでは、あらゆるオークションがカテゴリに分類されている。店頭販売が開始された翌日の12月3日からは、「おもちゃ、ゲーム>ゲーム>テレビゲーム>任天堂」というサブカテゴリの下に「Wii>本体」カテゴリが設定された。Wiiはそれ以前からも出品されているが、トップレベルにおいて「任天堂 Wii 本体」という検索語で検索した結果を調べたところ、ほとんどが「おもちゃ、ゲーム>ゲーム>テレビゲーム>任天堂>ニンテンドーDS>本体」カテゴリでの出品であった。

収集の網羅性を重視するなら、トップレベルで検索語を「wii」として検索した結果を収集対象とすべきである。しかし、オークションとは、あくまでも一般利用者の目に触れてはじめて入札される以上、一般消費者が検索に苦労するようなカテゴリに出品される可能性は低いはずである。そこで本研究では、次の二通りの検索によって対象データを収集することにした。

1) 「おもちゃ、ゲーム>ゲーム>テレビゲーム>任天堂Wii>本体」に含まれる全オークション

2) おもちゃ、ゲーム>ゲーム>テレビゲーム>任天堂>ニンテンドーDS>本体」カテゴリで検索語「Wii」で検索した結果

12月3日以降の出品分であっても、出品者が「Wii」カテゴリの存在に気づかなかった可能性は皆無ではない。また、12月3日以前の出品が落札されずに再出品された場合、当然、前のカテゴリに含まれている。よって、12月3日以降の出品に対しても、2)のデータを分析対象として収集することとした。

2.1.2 収集方法

データ収集に用いたソフトウェアは、アップ

ル社のWWWブラウザ「Safari」(バージョン2.0.4)である。ファイルの保存はすべてWeb archive方式で行った。

オークション・データの収集は次の手順に従った。

- 1) 毎日23時ごろ、ヤフーオークションにアクセスし、前項で示した方法に基づいてWiiの出品を含むオークションを検索する。
- 2) 検索結果のなかで、落札時間が残り1分以上24時間以下のものが掲載されているページ(リスト)を保存する。ただし、収集データの連続性を保つために、常に数ページ分余分に保存する。
- 3) 後日、保存したリストの各項目にリンクされた個々のオークションにアクセスし、落札が確定したもののページをファイルに保存する。

2007年9月現在、ヤフーオークションにおける個々の出品履歴は、落札確定から120日間保管される。したがって、3)の作業はリストの保存から120日以内に行わなければならないが、今回の研究においては、2006年11月10日午前2時以降の取引データを収集できた。

なお、筆者の都合により1)及び2)の作業を実施できなかった分については、aucfan.comを用いてリストを補った。aucfan.comでは過去一年分のオークション(落札確定分)を検索できるようになっている。分類カテゴリーもオークション・サイトと同じであるため、データの保管は可能であると考えられる。

2. 1. 3 収集対象期間

任天堂Wiiが店頭で発売を開始したのは2006年12月2日である。しかし、ヤフーオークションにおいては、少なくとも9月29日の時点でWiiが一点、29,500円で落札されている(オークションID:h44300513)。10月の時点でも5点の落札が確認できた。そこで、2006年9月1日以降のリストを収集した。

ネットオークションにおけるWiiの需要は、店頭発売時点に高まった。また、Wiiは友人や家族と遊べることを宣伝で強調していたことから、クリスマス及び年末年始にも需要が発生し

ている。さらに、Wiiは任天堂が大規模な増産に乗り出さなかったため、2007年1月に入ってもネットオークションでの需要は継続した。

こうした状況から、リストの収集は2月中旬まで継続した。ただし、1月中旬以降は落札相場と店頭希望小売価格の差が縮小し、かつ相場の変動幅が小さくなったことから、2007年1月16日以降は2~5日間隔でリストを収集し、2月18日時点で収集作業を完了させた。

2. 1. 4 収集上の制約

aucfan.comの「このページについて」によれば、aucfan.comにおけるヤフーオークションの落札データには次に引用する制約がある。

- ・Yahoo!で、2:00~6:00に終了する商品については対象外となります。
 - ・Yahoo!で、6:00-18:00頃に終了するオークションは、当日の3:00の時点で入札があったものについては全ての落札結果を調査しますが、その時点で入札がなかったものについては1割だけしか調査しません。
 - ・Yahoo!で、18:00-26:00頃に終了するオークションは、当日の18:00の時点で入札があったものについては全ての落札結果を調査しますが、その時点で入札がなかったものについては1割だけしか調査しません。
- 出所) <http://aucfan.com/searchhelp.htm>
(2007年10月1日閲覧確認)

しかしながら、本研究においては、この制約は決定的な問題点とはならない。

まず第一に、筆者が実際にヤフーオークションで収集した落札データを時間帯別に集計したところ、午前2時から午前6時までの4時間に落札された出品の比率はきわめてく、その日の落札件数全体の1パーセント程度である。今回、主としてaucfan.comよりデータを収集した期間は2006年9月1日~11月30日であるが、この間、落札件数は1~281点である。つまり、最初の制約条件のために入手できない可能性のあるデータは、一日あたり3点以内にとどまるものと推測できる。

第二に、本研究が対象としたオークション

は、入札行動がきわめて活発であった。一つのオークションに対し平均して7人程度が入札しており、終了予定時刻の15時間前の時点で入札が皆無という例は、かなり少数であると推測される。よって、2番目及び3番目の制約事項も、本研究では全体の影響を左右するほどの問題点ではないと判断できる。

他方、筆者側の事情により、11月30日分のデータを収集することができなかった。また、aucfan.comにおいても11月30日午前2時から12月1日午前6時までのデータが網羅されていなかった。その結果、この間26時間分のデータが欠落することとなった。

また、ヤフーオークションには「即決」という仕組みがある。出品者があらかじめ設定した希望価格を入札者が入れれば、その時点でオークションが完了してしまう。リスト収集時にすでに即決で落札されたものは、そのオークションの存在自体を知る術がない。したがって、今回の研究で得られたデータからは、即決ですでに決着がついたオークションは欠落しており、その数を推定することはできない。しかし、Wiiのように高値入札が期待されるオークションでは、即決設定は基本的に好まれないはずである。そこで、即決で存在が確認できないオークションの件数は、本研究の分析を損なうほどの量ではないもの仮定することにした。

2. 2 保存対象のオークション・データ

2. 2. 1 Wiiの出品パターン

オークションの出品はすべてが落札されるわけではない。入札者が皆無のまま終了に至ったオークションも存在するが、当然ながら今回は収集の対象外である。また、入札はなされたものの、終了前に入札者全員が入札を取り消したオークションもまた、実質的に入札者ゼロと同様なので、収集の対象外である。すなわち、今回の収集対象は落札が確定したオークションのみである。

Wiiカテゴリー内の出品、あるいはWiiで検索をかけた結果のなかには、Wii本体を含むなん通りかの出品パターンが確認された。11月20日から12月10日の間に出品されたオークションのパターンは次のとおりである。

- a) Wii本体一式（本体及び標準付属品）
- b) Wii本体一式及び追加周辺機器
- c) Wii本体一式及びソフト
- d) Wii本体一式及び追加周辺機器、ソフト
- e) Wii本体一式及びおまけ

任天堂がWii本体一式として希望小売価格25,000円で販売している商品は、Wii本体、Wiiリモコン（ストラップ付き）、ヌンチャク（拡張コントローラ）、専用ACアダプタ、専用AVケーブル、本体専用スタンド、本体専用スタンド補助プレート、センサーバー、センサーベーススタンド、単三乾電池（2個）で構成されている。オークションの内容は出品タイトルではほぼ把握できるが、中には本体一式のみの出品にもかかわらず「ヌンチャク付き」と表記する例、付属品をすべて含んでも「本体のみ」と表記する例が目立った。これらは当然、パターンとしてはaである。他方、本体一式にヌンチャクを1つ余分に追加した出品もあったが、これはパターンbである。

価格動向を分析する上では、対象となる商品の条件を揃える必要がある。そしてパターンaからdの分布においては、aが圧倒的に大きな割合を占めていた。よって、今回の分析ではパターンa、すなわちWii本体一式のみを対象とすることにした。

なお、パターンeの「おまけ」の多くは、商品カタログ、ゲーム雑誌、非売品ポスター等であり、Wii本体に何らかの付加価値を増すものとはいえない内容が多々観察された。実質的にパターンaと同一と判断できないこともない。しかしながら、入札者がいかなる価値観に基づいて入札に至るかは断定できないため、今回は「おまけ」付きも分析対象から除外することにした。

2. 2. 2 オークション・データの構成

ヤフーオークションの個々の入札画面は、タブによって「商品の情報」ページ、「入札履歴」ページ、「出品者への質問」ページ、そして「連絡掲示板」ページが重ね合わされている。入札動向の分析で重要なのは、入札の時間、入札額、入札者のID等が記録されている「入札履歴」ページである。ただし、個々の入札履歴は、このページにリンクされた「詳細な入札履歴」ペー

ジに掲載されている。

今回のデータ収集に際しては、個々のオークションの「入札履歴」ページ及び「詳細な入札履歴」の最終ページを保存することにした。前者には入札者全員のID及び最終入札額が記録されている。入札件数が多いとき後者は複数ページにまたがるが、オークションでは落札直前に激しい競合が発生することから（いわゆる「Last-minute bidding」）、最終ページのみで十分に競合の状況は把握できると判断した。

また、「商品の情報」ページも保存することにした。オークションの内容は、通常、タイトルを読めばほぼ把握できる。しかし、前項で示したように、本体一式のみなのか、それとも付属機器が追加されているのかが、タイトルだけでは不明確な場合がある。そこで、データのスクリーニングのために、「商品の情報」ページを保存する必要があると判断した。

2. 2. 3 データの整理

オークション・データを保存する際には、個々のオークションIDをファイル名の先頭に付けた。こうすることで、重複するデータを識別できる。保存したファイルは、落札日ごとにフォルダにまとめ、そのなかでさらに、落札時間別・入札人数別にサブフォルダで分類した。この過程で、重複したファイルは削除した。

2. 3 データのスクリーニング

2. 3. 1 判断のポイント

前節に示した方針に基づく作業によって、「落札が確定したWii本体一式のみ」のオークション・データが収集されることになる。しかし、次の3ケースについては、分析対象に含めるか否かの判断が必要である。

まず第一に、オークション終了後に落札者が取り消しを行い、次点者が入札を確認したケースである。このような展開は「詳細な入札履歴」ページで把握ができるが、落札確定後に最高支払意志額が撤回されてしまった以上、分析対象データからは除外する。

第二に、落札者がオークションの「荒らし」を企図したものと推定できるオークションである。今回収集したデータを整理する過程におい

て、評価が「停止中」となっているID、すなわち何らかの問題のためにヤフー側に使用を差し止められたIDが散見された。そのようなID数名の取引履歴を確認してみたところ、いずれも複数のWii関連オークションを落札したにもかかわらず、取引関係の連絡が取れずに出品者からマイナス評価を受けた例ばかりであった。こうした入札者の行動もまた、円滑なオークションと同列に扱うことはできないため、今回は落札者の評価が「停止中」のオークションは除外した。ただし、そのようなIDが入札者に含まれている場合であっても、他の者が落札したオークションは分析対象にすこととした。

第三のケースは、落札金額がメーカーの希望小売価格を下回ったオークションである。何らかの技術的なトラブルがオークション・サイトのサーバに発生したときに、継続中のオークションが突然終了されることがある。あるいは、オークション出品者側の一方的な事情でオークションを継続できなくなった可能性も考えられる。いずれにせよ、今回のWii関連オークションは、明らかに高値転売が主目的であると考えられる以上、メーカーの希望小売価格（25,000円）以下の落札は、何らかのトラブルによる結果と考えるのが妥当である。よって、そのようなオークションも分析対象から除外した。

2. 3. 2 最終的な分析対象

以上のスクリーニングに基づき、本研究においては2006年11月10日から2007年2月18日までのオークション・データを収集した。ただし、前節で述べたように、2007年1月16日以降はデータを収集していない日がある。

実際の分析に際し、今回は店頭販売日近辺の価格変動に注目することにした。そこで、スクリーニングしたデータのなかから、店頭販売日である12月2日の前後一週間ずつ、すなわち2006年11月25日午前0時から同年12月8日午後11時59分までのオークション・データを抽出している。Wii関連商品の出品は、少なくとも9月29日の時点で出品が確認されていることはすでに指摘した。しかし、落札件数が増加したのは11月下旬である（図1）。とりわけ11月25日から急増し、12月4日にピークに達し

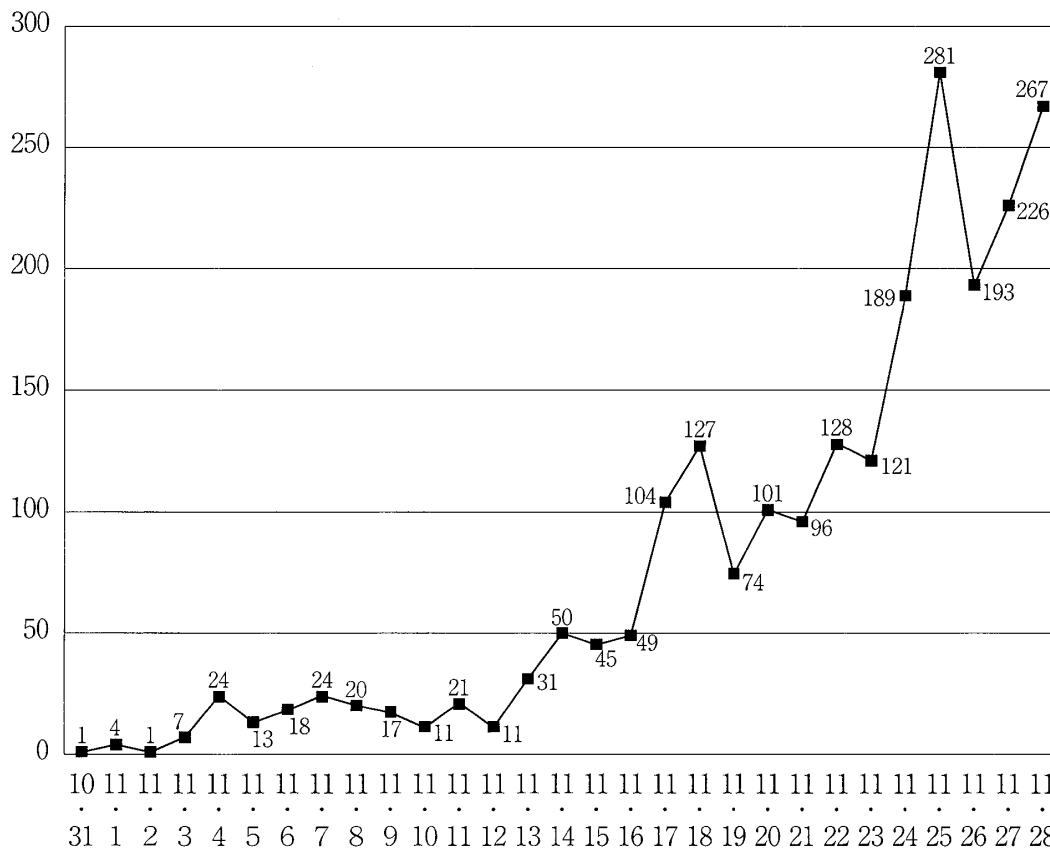


図1 2006年11月のヤフーオークションにおけるWii本体を含むオークション落札件数の推移

たことが確認できる。したがって、11月25日から12月8日のデータを分析することで、入札競争が激化した状況は十分に把握できるはずである。

以上の方針によって、最終的に8,232件のサンプルを得た。そのうち、即決によってオークションが終了したものが286件含まれている。これらは終了予定時間前にオークションが終わっているため、Last-minute bidding現象が生じていない。入札を検討していた人々の入札機会がなくなってしまった点も考慮するなら、落札の動向を分析する上で、即決によって決まったオークションは分析から除外するのが適切であると判断できる。よって、次章以降の分析は、即決分を除いた7,946件を対象とする。

3 分析結果

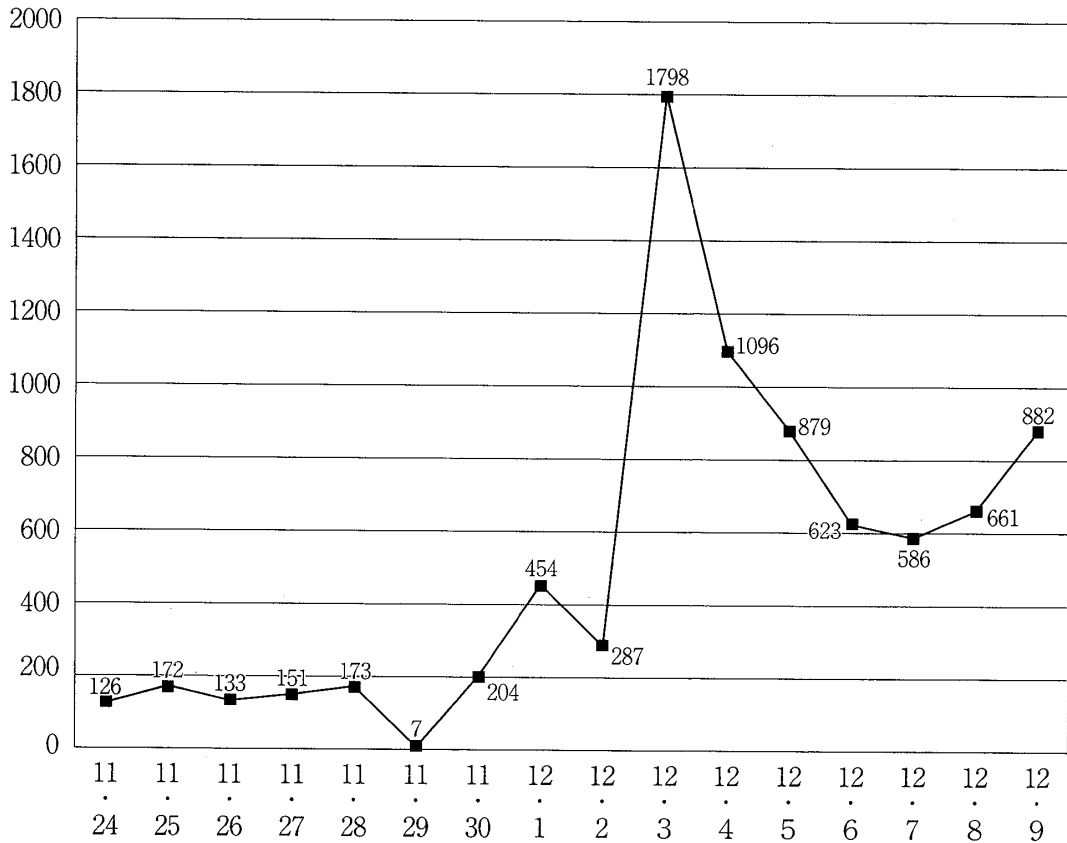
3.1 データ全体の傾向

分析対象サンプル7,946件のオークションに関し、落札件数のピークは12月4日(図2)、落札額の平均は30,863円、最小値は25,500円、

最大値は56,500円であった。また、入札者数の平均は7.6人、最大値は25人である。

落札金額を1,000円単位で区切って度数を調べたところ(図3)、最も多い度数を記録したのは「30,000円以上31,000円未満」の層であった。これは平均値が含まれるレンジである。ところが、それに次いで度数が多いのは「29,000円以上30,000円未満」、それに次ぐのは「28,000円以上29,000円未満」であった。Wiiのオークションをめぐるのは、高値での転売を狙って店頭販売当日の前日から行列に並んだ消費者が少なからずいたことが新聞等で話題になった。しかし、希望小売価格の倍以上の価格で落札された事例が皆無ではないにせよ、実際には数千円の上乗せで落札されるケースが多かったのである。今回の集計によれば、30,000円未満で落札されたオークションが3,025点、すなわち調査対象の38パーセントを占めている。

落札価格の度数は34,000円以上の階層から大きく減少している。34,000円以上の度数をすべて合計しても1,062サンプルであり、これは



注意) 11月30日午前2時0分から12月1日午前6時0分までのデータが欠落しているため、11月30日及び12月1日のサンプル数は異常値である。

図2 本研究のサンプル数推移 (2006年11月25日～12月10日)

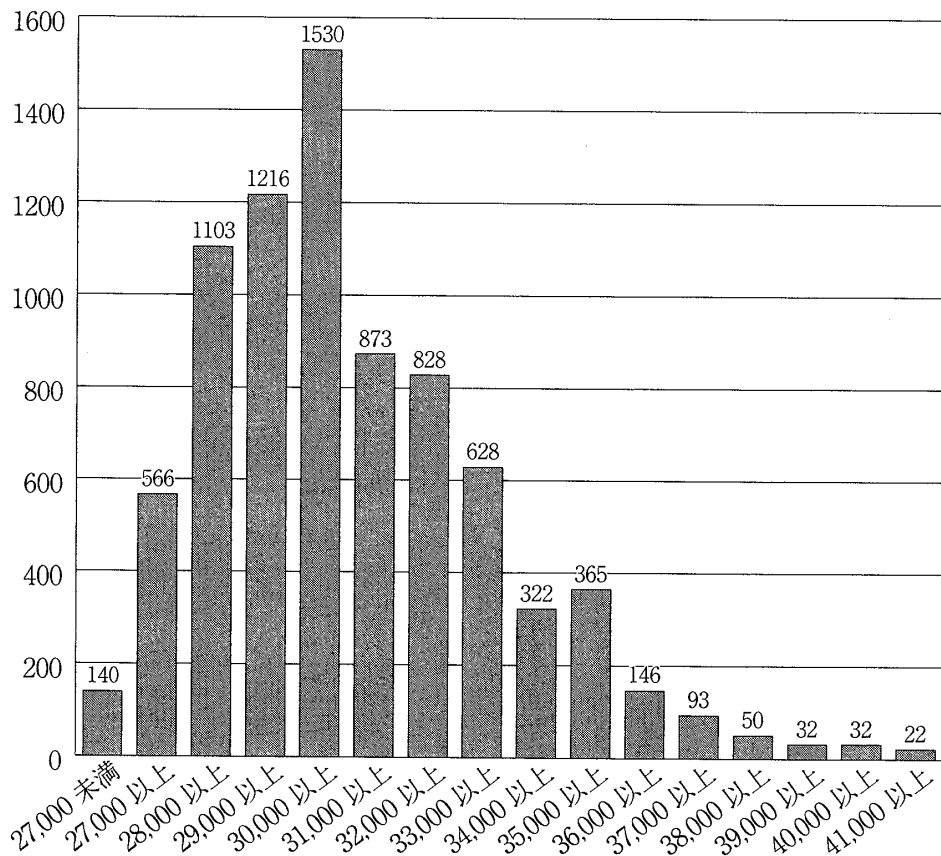


図3 落札価格の度数分布

調査対象の13パーセントである。

入札者数の度数分布で最大規模となったのは、入札者数6人の箇所である(図4)。次いで、7人の層、それに次ぐのが5人の層であった。平均こそ7.6人であったが、実際には2~6人で全体の40パーセントを占めている。

なお、入札者数と落札価格との間には、正の相関関係($R = 0.337, p < 0.001$)が認められる。入札者が多い方が落札価格が高くなるという傾向は、直感的な認識とも合致する結果である。

3. 2 一日ごとの推移

3. 2. 1 平均落札額の日別推移

前節の図2に示したとおり、落札件数は12月4日にピークを迎えている。その後、大きく件数を減らし、12月9日には再び増加に転じるなど、日によってオークションの状況は異なっている。そこで、一日の平均落札価格と平均入札者数の推移を追跡してみた。

平均落札価格は、11月25日から12月3日まででは33,000円前後を推移していたが、落札件数

が急増した12月4日には29,000円台まで一気に低下している(図5)。そして12月8日までは31,000円台まで再上昇したが、翌12月9日から減少に転じている。つまり、落札件数が増加しているときは、落札価格が減少しているのだ。実際、一日の平均落札価格と一日の合計落札件数の関係を見ると(異常値である11月30日及び12月1日分は除外する)、負の相関関係($R = -0.854, p < 0.01$)が認められた。

3. 2. 2 平均入札者数の日別推移

平均入札者数もまた、平均落札価格と同様の傾向を示している。11月27日から12月1日までは各オークションに対し平均で8~9人の入札者が参入していたのが、12月2日には10人を超え、それが12月4日には6人台まで降下している(図6)。一日平均入札者数と一日の合計落札件数の間にも、やはり負の相関関係($R = -0.564, p < 0.01$)が認められた。

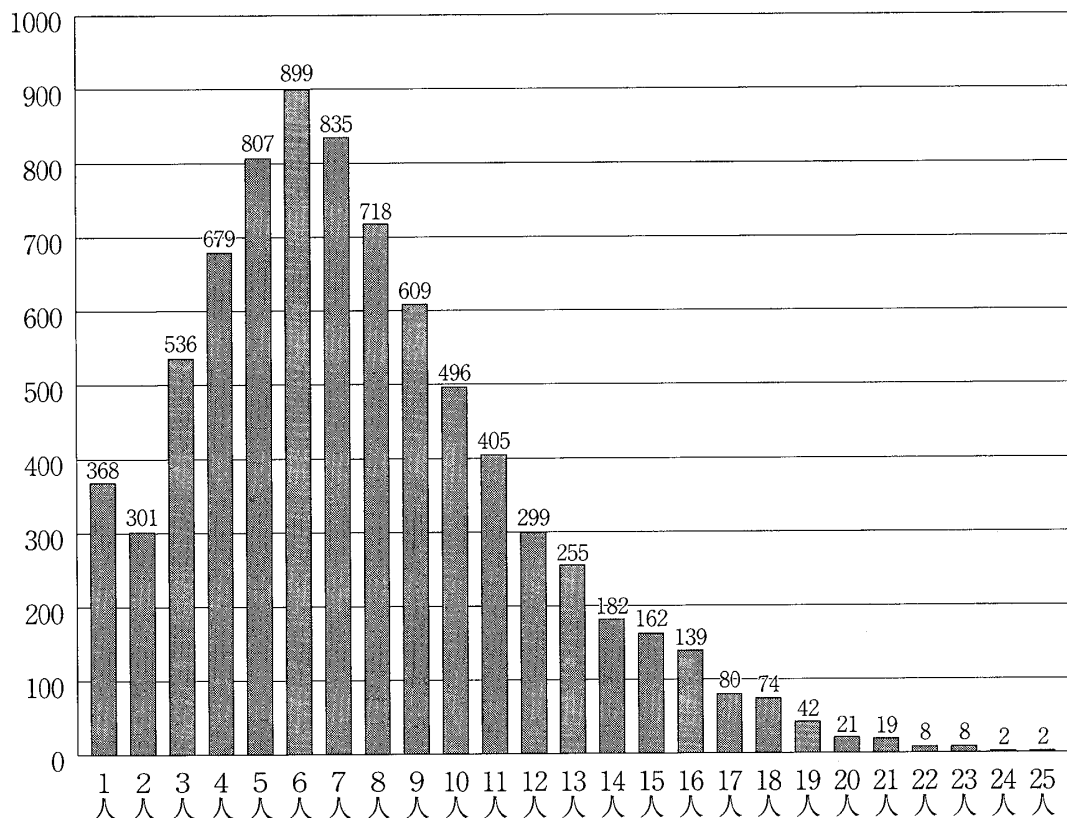


図4 入札者数の度数分布

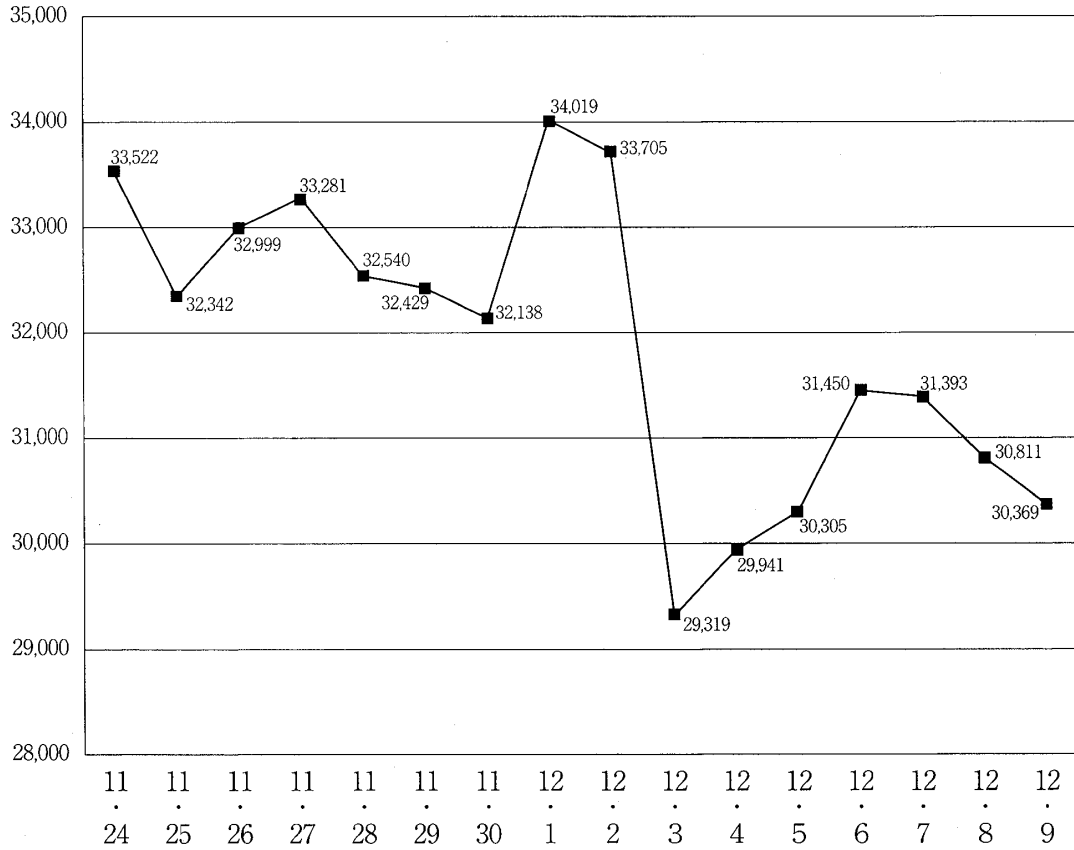


図5 平均落札価格の日別推移 (単位：円)

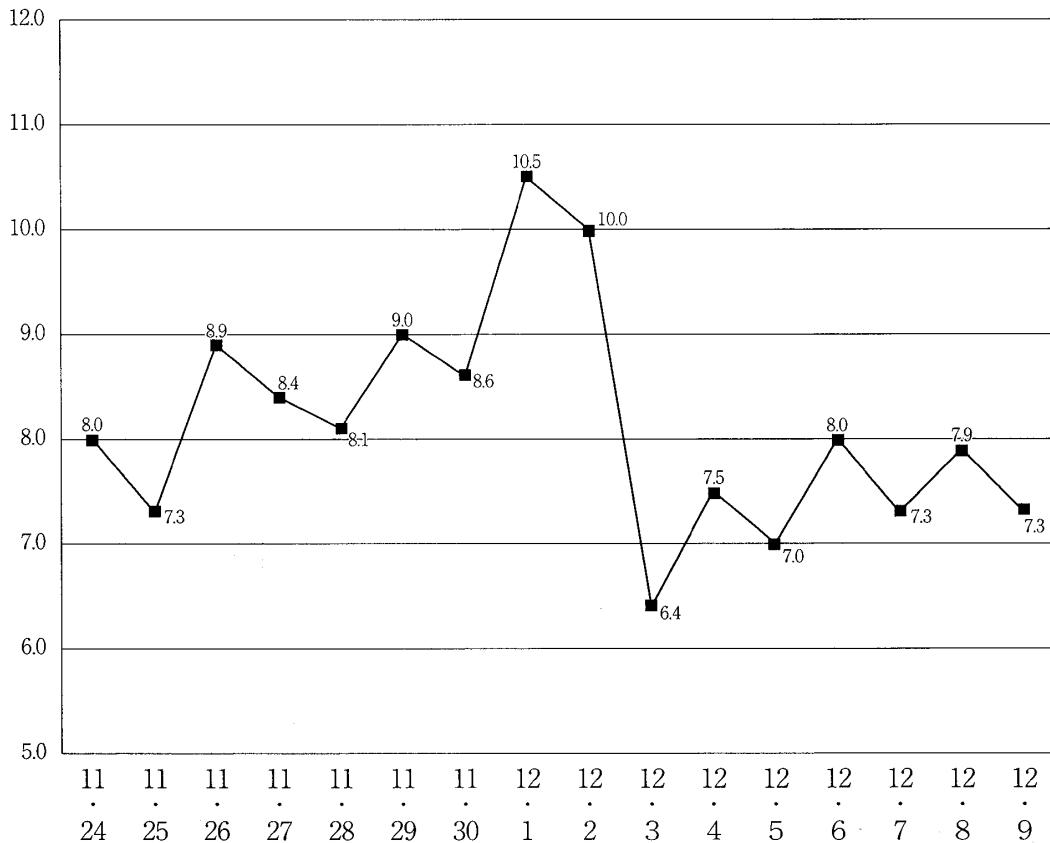


図6 平均入札者数の日別推移 (単位：人)

3. 3 時間帯別の傾向

3. 3. 1 落札件数の時間帯別推移

オークションの落札件数は、時間帯によって大きく変化する。今回のデータを一時間ごとに集計し、時系列変化を追跡してみたところ、落札件数は、「一日の終わり頃に激増し、早朝にかけて激減、昼ごろ一時的に増加した後、再び減少、そして深夜に向けて激増」というパターンを繰り返している（図7）。

状況を詳細に追跡するため、店頭販売当日の12月2日、落札件数がピークに達した12月4日、その後オフピークとなった12月8日、再び件数が上昇した12月10日の四日分について、時間帯別の落札件数の推移をプロットしてみた（図8）。その結果、どの日においても落札件数は4時台から6時台を底として12時台に一度ピークに達し、14時台を再び底とした後20時台に急増し、22時台に最大値を記録する、というパターンとなっている。すなわち、今回のWii関連のオークションでは、22時台に取引の

過半が集中するとともに、12時台にも活発な取引が行われていた、ということだ。

3. 3. 2 平均落札金額の時間帯別推移

落札価格の時間ごとの平均も単調に推移するのではなく、時間帯によって振幅している。ただし、上昇・下降の推移は落札件数とは反対である。すなわち、夜遅い時間帯に急低下した落札価格が朝から夕方にかけて上昇し、夜遅い時間に再び下落する、というパターンである（図9）。落札件数と同様に、12月2日・4日・8日・10日の四日分について、時間帯別の平均落札金額をプロットした（図10）。落札件数よりも傾向のばらつきは若干認められるものの、全体を通じ、20時台に落札価格は一気に低下し、22時台に底となる、というパターンは共通している。すなわち、落札件数の急増する時間帯には平均落札金額の下落が生じているということだ。

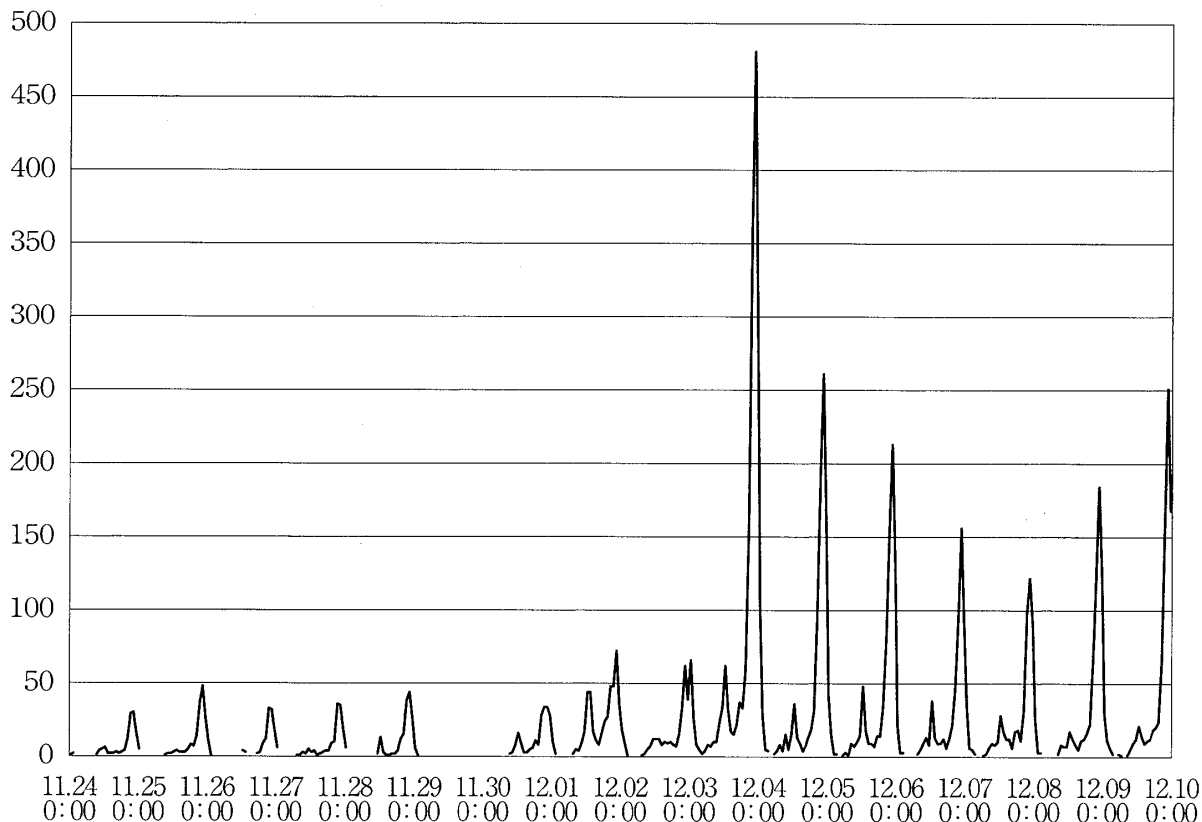


図7 11月25日から12月10日までの一時間ごとの落札件数の推移

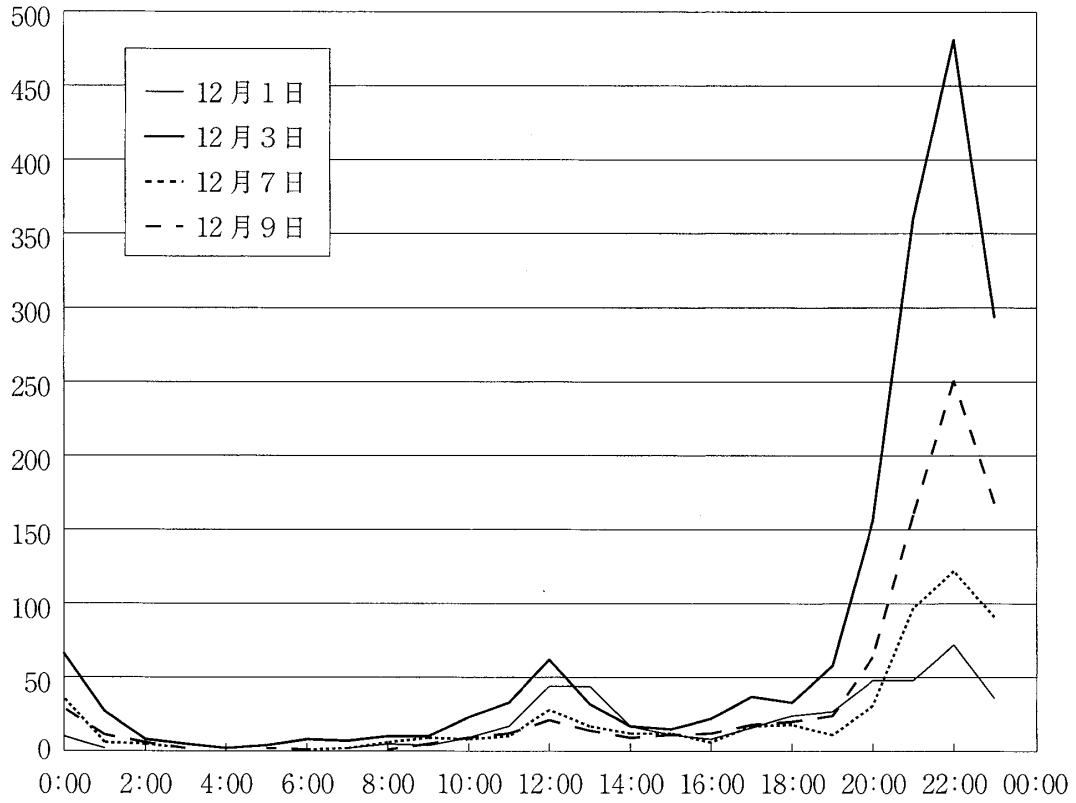


図8 時間帯別の落札件数の推移比較

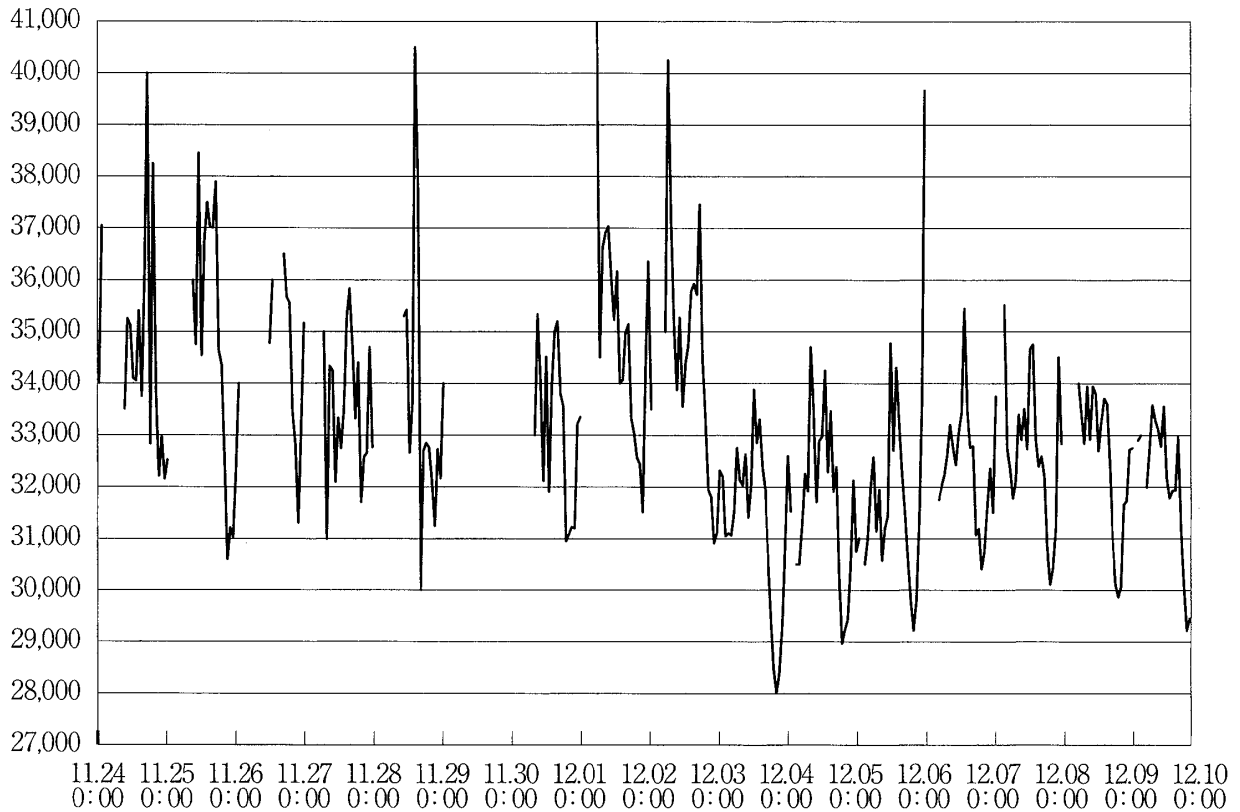


図9 11月25日から12月10日までの一時間ごとの平均落札金額の推移 (単位: 円)

3. 3. 3 平均入札者数の時間帯別推移

平均入札者数も時間帯によって大きく振幅している(図11)。また、12月2日・4日・8日・10日の四日分のプロットにおいては、14時台から16時台にかけて平均入札者数が一日のピークに達している(図12)。落札件数の点では22時台が最も活発な取引状況を呈しているのに対し、個々のオークションへの入札競争という点では、落札件数が相対的に少ない14時台から16時台に最も激化した、ということだ。

3. 3. 4 高値落札の特徴

3. 1で述べたように、落札金額が34,000円以上となったオークションは、今回の対象データでは少数に属する。しかし、すぐにほしいと願う人であれば多少の高値でも入手しようとする心理が働く可能性があり、とりわけその心理は店頭発売当日には顕著にあらわれる可能性が高い。一方、大量に出品されていれば、高値を避ける行動が増える可能性がある。そこで、落札価格が34,000円以上のサンプルに限定し、一

日あたりの落札件数と、全サンプルに占める構成比をプロットしてみた(図13)。

その結果、高値落札の件数、全件数に占める比率のいずれも、やはり店頭販売当日の12月2日がピークとなっている。また、落札件数が激増した12月4日には、件数、比率とも一気に減少している。12月2日は全体の47パーセントが高値落札であったのに対し、12月4日は4.2パーセントを占めるにすぎない。そこで、全体のデータを時間帯別に集計してプロットした(図14)。その結果、高値落札率は14時台前後が最も高く、20時台に比率を一気に下げ、22時台、23時台で最低を記録する、という傾向が読み取れた。

4 まとめ

ネットオークションをめぐるのは、ごく一部の現象のみに基づく印象論が横行しがちである。それは、オークションの出品数が膨大であること、事前にリストを収集しておかないかぎり、過去のオークション・データを網羅的に取

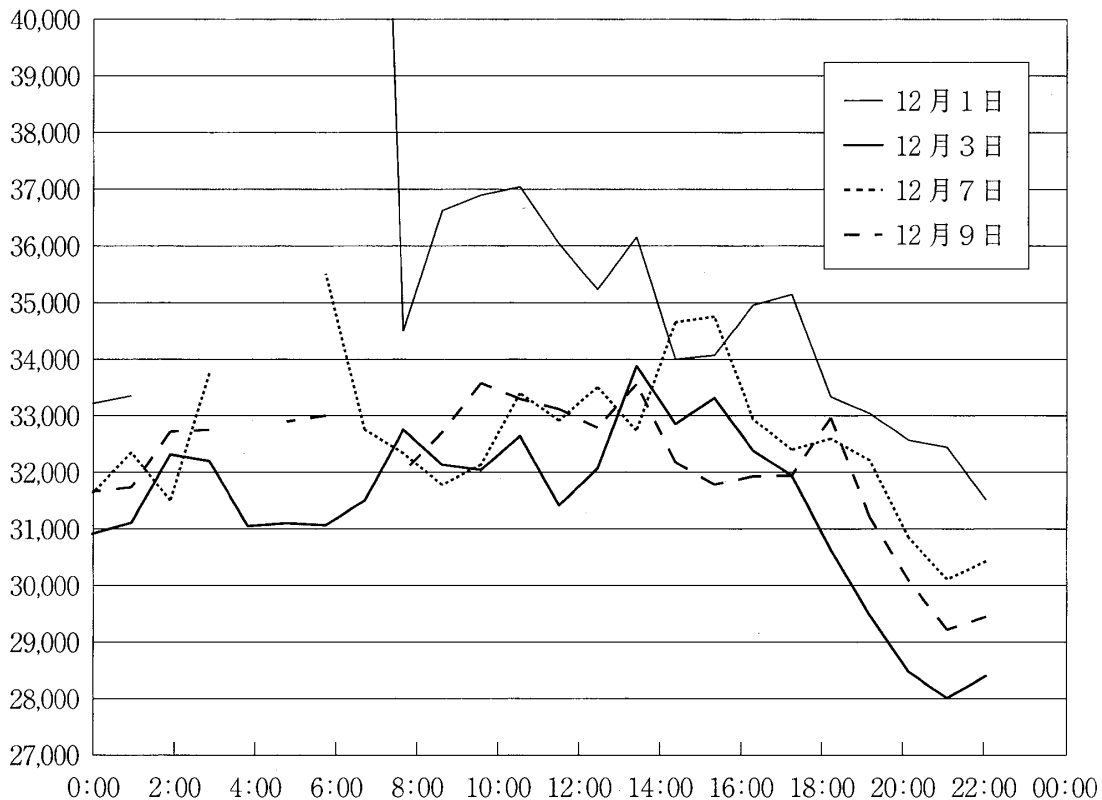


図10 時間帯別の平均落札金額の推移比較 (単位: 円)

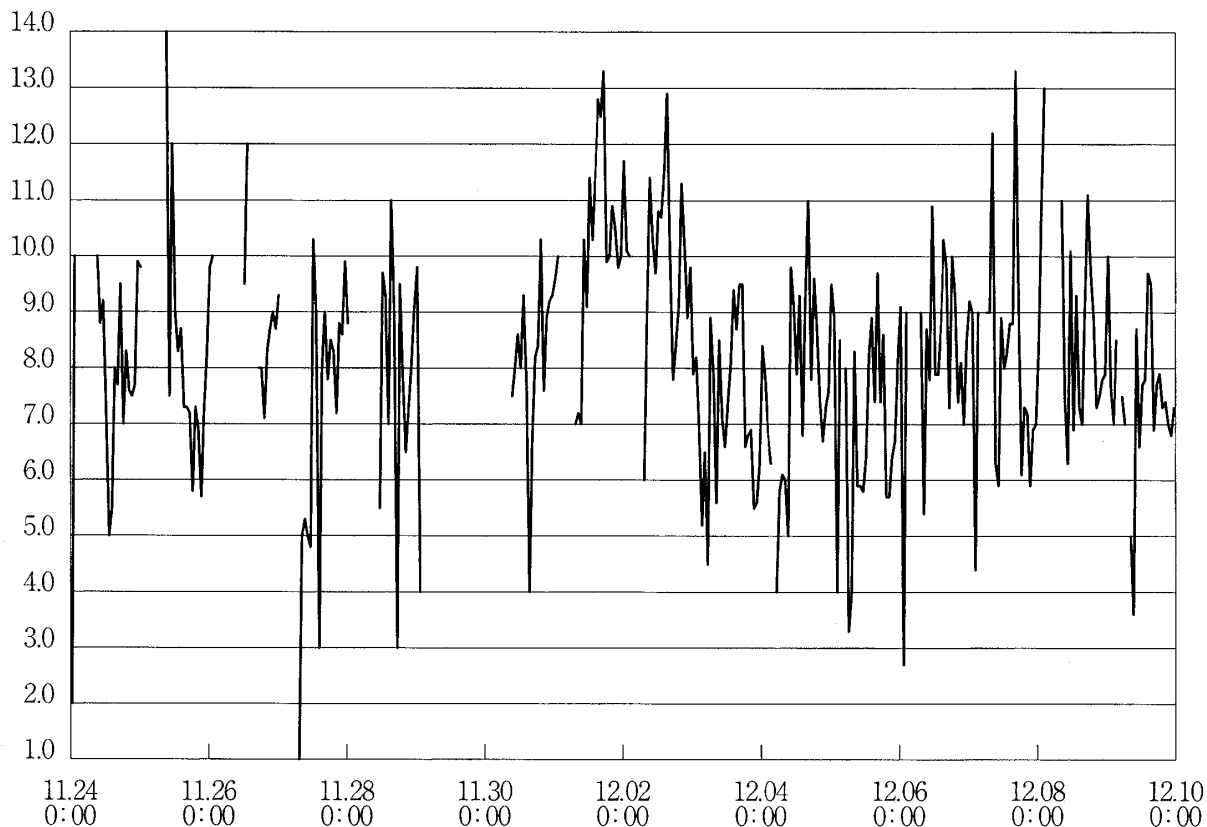


図11 11月25日から12月10日までの一時間ごとの平均入札者数の推移 (単位：人)

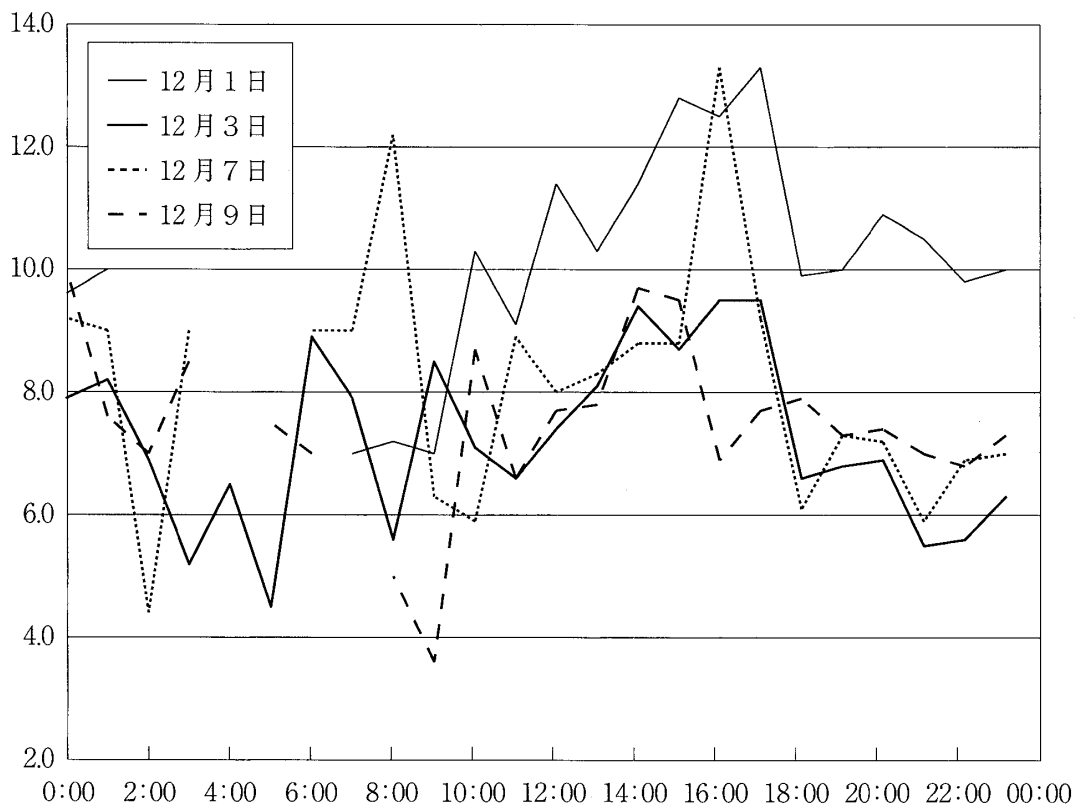


図12 時間帯別の平均入札者数の推移比較 (単位：人)

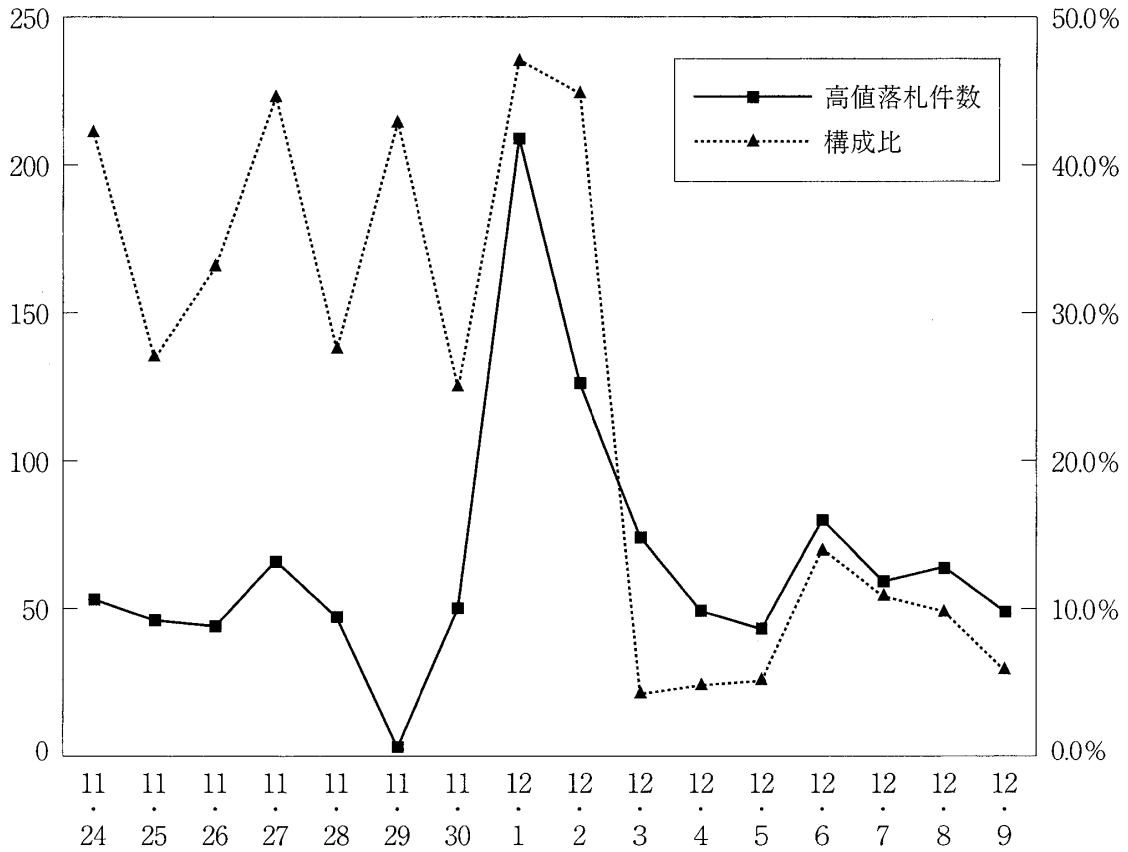


図13 高値落札されたオークションの日別推移 (単位：円、%)

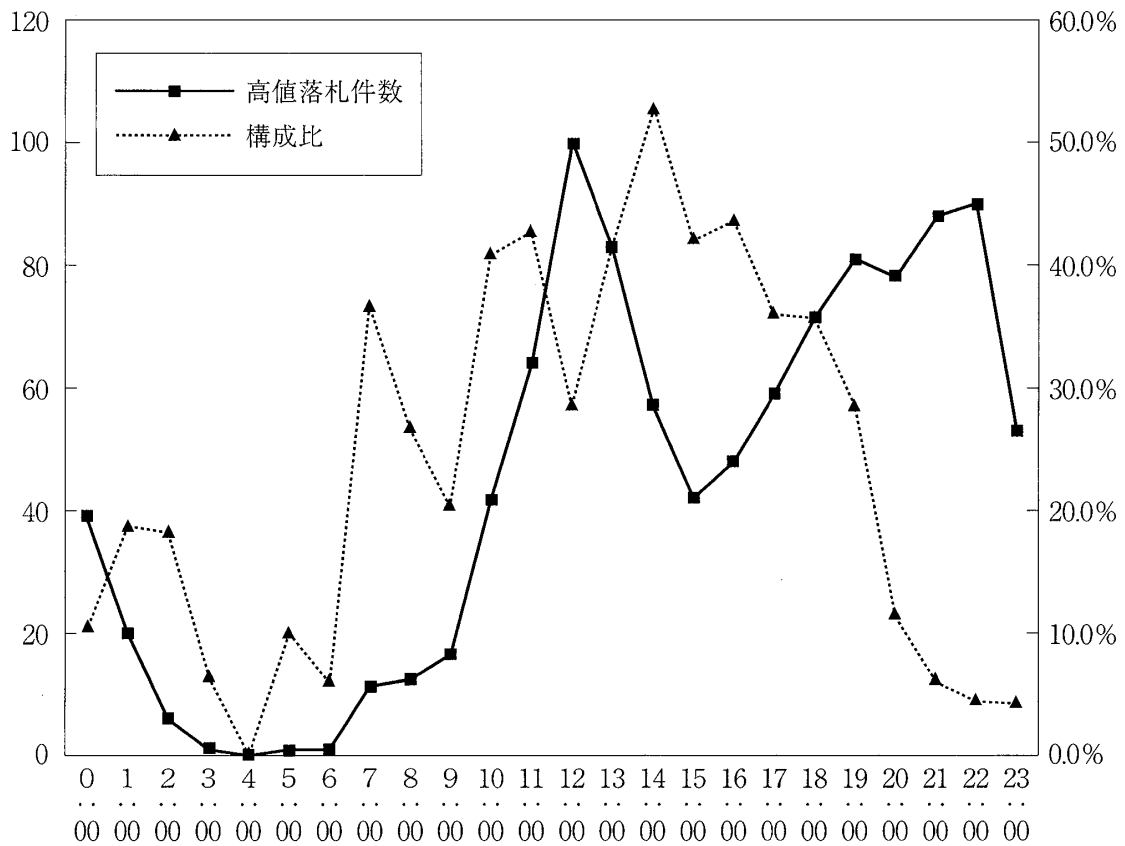


図14 高値落札されたオークションの時間帯別比較 (単位：件、%)

集することが困難であることから、全体を俯瞰することが困難であることに起因するものと考えられる。それに対し、本研究においては、任天堂Wiiという特定商品に限定しているとはいえ、実際のオークション・データを網羅的に収集し、それに基づく定量的な分析を実施した。オークションにおける入札行動を客観的に評価することができたものと考えられる。

Wiiをめぐるオークションの場合、店頭発売日前後で状況が大きく異なっていることがわかった。出品自体は店頭発売初日の二ヶ月以上も前から始まったが、出品が活発化したのはその十日前ごろからである。そして、落札価格は33,000円、すなわち希望小売価格の8,000円上乗せ程度で推移し、店頭販売開始当日の12月2日にはピークに達し、とくにこの日の11時台には平均落札価格が37,000円を超えている。各オークションへの入札者数も、12月2日の12時台から17時台までは常時10人を超えていた。この部分だけを見れば、Wiiをめぐる入札合戦が過熱したと評することができる。

しかしながら、こうした高値取引は出品数の激増によって解消する。12月4日に落札に至ったオークションの件数は、2日終了のもの4倍以上に達する。平均落札価格は30,000円を切り、4日22時台には28,000円程度にまで下がっている。入札者数平均も6人台まで下がった。需要者に対する供給量の増加によって価格が下がるという一般的な価格原理は、ネットオークションでも適用可能であるということだ。

他方、落札件数は時間帯による偏りが著しく、おなじ日であっても、終了時間が集中する時間帯ほど平均落札価格は低い。また、落札価格は単調に上下するのではなく、時間帯別の終了時間件数の多寡に応じて変動を繰り返している。同じ日にWiiを落札できた人の間に、3,000～5,000円の差が常時生じていたのである。

ネットオークションの入札者は、過去のデー

タを分析したうえで参加しているわけではなかろう。たしかにaucfan.comのような落札価格比較可能なサイトを参照すれば、ある程度の定量的傾向の把握は可能だ。しかし、過去の法則性、今後の出品数の推移を把握することは困難である。そうであれば、その時点で認識可能な出品数の多寡で入手機会を判断し、多数の出品が確認できたときは入札を控え、相対的に少数の出品しか確認できないときは入手を競う、という行動パターンが生じるものと考えられる。

5 今後の課題

本研究においては、実際に入手したデータの一部を集計した。オークションの原データ収集はほぼすべてが手作業に頼らざるえず、入手したファイルを集計可能なデータに加工する作業も、個々のサンプルから必要部分の一つずつコピーせざるをえない。非常に膨大な作業時間を要するがゆえに、時間の制約上、入手したデータのすべてを集計するには至らなかった。

しかしながら、リスト段階で把握できた事実として、落札件数はクリスマス前後、元旦前後にも大きく変化している。こうした期間も含めた集計を行えば、より明確な傾向を把握できたものと考えられる。作業そのものが膨大な時間を要する以上、事前に調査グループ等を編成して取り組むべきであった。

また、分析に致命的な支障をきたさなかったとはいえ、一部期間のデータを入手できなかったことは、やはり反省点と認めざるをえない。この点もまた、単独での作業の限界が原因であろう。

以上のことから、今後同様の研究調査を進めるにあたっては、事前に調査チームを編成し、綿密なスケジュール管理のもとで取り組む必要があると考えられる。

以上